能諭示柔說
深門夜遊集
全

へ 5
1908

へ 5

佛説未生怨紀

并 淀川夜遊集

宇野文庫

龍華子

寶館

俳諧未来記

ここに達せる世代二翁こそ未来をしるの知のしるしなり
向上の名にはむなしからす伊賀翁のこゝろみのよ
時雨にも擲て蕉の戸の山居僅に名露を絶
なかしまりの也去和の諸集はのちを知も
数せるを遠見未此事は月雪花をうしなひ
さる達は二千南山風雪は翁のふしのさはおのれ我
没後くをの生命は文章を聴二子有修

の上にてうたう人世に高きを不ふかるべきもの
うまれ出るうりの中に紅なるい　東坡さうえ
いはしうの系のごとくにまさるものなり
おく好色の妹沼中のごとくにぬまや
雪中庵二世の主人吾師翁夫こうる風俗
を弱き門人にあたえ元年俳りと
なることを恥いう迷流なるべし人こゝの世
しるべにたゝあるべき只師三代の
あのうれを高きしこゝ宗ゝ

和りくたりぬある日師の弟子の友琴り七
そ家の文庫に菊岳の二俳伝を活る
師はそれをもとにしたるものなり
発句うるしくこゝ今年この一巻を写し
沼ることを恥とせしこの書未事紀ゆ
題して所をゝ仙化文と称ゝ毎の自序と
そそ岳年の孫未世の遺をんこうし　師歌
しるべりふ年氏の俳行家に師く蕉合を
うるのまものとふとうの迷俳五師い牡

庭花の接合之性氏記すまむつかしき事
なることとみえたりと此の首に任せ捨く
枝弱の雪門に出たしと梅にありあまる
ところ此和に画真自東嶺山下根岸の
草庵にしるす

門人
寸松菴周竹節

草庵に桃桜あり
門人に其角嵐雪あり。
両の手に桃とさくらや草の餅　芭蕉
鶯に例し蝶鳥のちから　嵐雪
出かはりの幼縁すり陽炎。　其角
山のあをさの淡雪雨里　蕉
家下に月色の稲の穂ゆるく　雪
風邑やとのに切しくの記　角

信濃軍の相撲の手分いろいろ過

芭蕉

第五のうちに人生の作りの

雪

無言にて入南部藩の高安無

角

至尉住寺ふ宵こ月の嵐

蕉

酒ものまず枕のうちに雪

雪

刹やとりふ花のかうら

角

負軍切者引こうえ過

蕉

ふてしくるこ雪の四ケ方

雪

えをしこ好屋へ過入月の友

角

唐の都ものをせこ小男鹿

蕉

一色り仮屋の宮の浮寝鳥

雪

日本よんくる浪の我山茶

角

ひてこ不弾ゆこ凡弾法師

雪

御醫師交ものを仏元こ

蕉

船ものこ過ものこ追ものこ

角

桃灯えのる所の入口

雪

女房ふ茶屋の宮こ若生こ

蕉

こう四の宮笑こ宮笑

角

蕉寒く関の孫六ぬらさるる　雪

ゆらゆら風の石菖へ寄る　蕉

牛のるの牛よせうと市の市　角

江湖ゆうふの四人玄六天　雪

ゆりかもと夜ゆへ月の角曉　蕉

いりく海りと明の行くも　雪

物ものもつはるるいり蔦のうらより　角

まるんすと処へ男ん歩　雪

一度を望をうつる小三郎　蕉

河ゆ沒沒ゆ神の門前　蕉

第イと未来を種一空の法　角

三人ゆゆふ美の日ゆゆ　雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧深川集

壬申九年[illegible]

[illegible]

[illegible]

深川遊

[illegible]

提[illegible]秋の新涼

皆の月概のかつて所なせて

坊主[illegible]

酒堂

芭蕉

酒堂

嵐蘭

紙水

松山の秋の月　湯の浜にて　堂

搭炉の煙ふきつれ　蕉

秋の日のうらうらとかすみ　水

ふまぬ木枯むすびけり　蘭

ふるさと京のかなしさや　蕉

翠簾にうつるもの　堂

宮殿まじる　蘭

西年歌の中　水

月のうらうらとかすみ　堂

きのふ昨日降ぬ　蕉

潮まつ浦の雪の朝ぼらけ　水

那智の御山の長生きを　葉

ちらちらとたもとをこぼす　蕉

その取上の海へ花もち　堂

町中の名所に赤くさきて　葉

夜もすがら　水

翠簾に花書て　堂

ふるさとの月　蕉

[illegible]の[illegible]品と[illegible]ふるうしや　水
[illegible]ふるも[illegible]鄙[illegible]まる　葉
山伏を切つく抑[illegible]る剣の[illegible]　蕉
濯物[illegible]ふる世の中　豈
分合ふる上戸[illegible]く呑のうし　葉
さうらう[illegible]ふる　水
[illegible]ふる[illegible]礼[illegible]ふる　豈
[illegible]ふる[illegible]ふる[illegible]ふる　蕉
機掃[illegible]ふる四も[illegible]人の[illegible]　水

[illegible]庭所[illegible]の小[illegible]さけ[illegible]く　葉
不[illegible]を[illegible]鄙の[illegible]市　蕉
こと[illegible]も[illegible]間の竈　豈
[illegible]一人[illegible]ふる[illegible]せも　葉
雑[illegible]の[illegible]ふる[illegible]仲　水

[illegible]居の留[illegible]

さつ人[illegible]ふる[illegible]十夜の庭の月　牧風
[illegible]ふのひ[illegible]ふる[illegible]　酒豈

馬[illegible]の命者[illegible]　曽良

朋のいとまの酒入て賣　石菊

人のうえ御家出る日のふきやのう　桃隣

秋ふかしかれる松いろ久しき　宗波

中秋の半ばも雨もふくるかな　筆

[illegible]　風

蓮の葉いちいさく見の牡丹　堂

地[illegible]の半の筵の濡袖　良

八六人[illegible]　菊

[illegible]力の[illegible]る蟬ふ　隣

月出くハッの[illegible]　波

[illegible]の時宜の[illegible]の後　堂

[illegible]ふ新もおう[illegible]　風

[illegible]入[illegible]　菊

花の[illegible]小田原陣の[illegible]　隣

陽[illegible]　波

能因の[illegible]　良

[illegible]加[illegible]　風

新一決那[illegible]も年[illegible]

節雪霜寒[illegible]雪の海笠　堂

出船[illegible]菜の陽の[illegible]会　良

[illegible]田芦浦　菊

[illegible]月[illegible]雲　蘇

[illegible]遠へ兼[illegible]る　汝

[illegible]稲の[illegible]　堂

山の門[illegible]　同

糸の塵[illegible]　菊

[illegible]　良

下[illegible]の紅[illegible]部の[illegible]　汝

[illegible]世の[illegible]　蘇

[illegible]　風

あの男[illegible]　堂

[illegible]河の[illegible]　良

長物[illegible]　菊

雲花[illegible]　汝

二日泊り京洛の名所を巡り
其夜伊勢戸に宿るの作

洗足して石枕つく宿の窓　洒堂
綿雛を思ふ夢の中や　許六
鶏鶏ここの淫を傳へ来て　芭蕉
まさしくその夜七夕も近し　嵐蘭
月の色恋しものなる小磯うら　六
葉末の露うつす面影の窓　堂

おもしろ牡丹の色のうつりて　堂
梅のそこらの落ちし木の子　蕉
苔の石堂に出て雪食ふ　堂
ぞうぞうしいらいの酒よ若菜摘　六
ひ、つ、つ、と鶯の鳴きそめる　蕉
まさ露の樓に屋とまを寄の言　葉
ふるさとの植木に名をつく　六
奇特の桃灯に名を書く　堂

汐さしくる事川の橋　蕉
村を花田面の名よのまさこを　二
俤のそこもの花ハ石布　堂
鷹狩の師は知り色ふ道の果　蕉
今ハ行ましてそ川の京　葉
川ひろく浪撰の間を隠恩　二
又ひろ行ふ道ハ見ぬ庵化　堂
物憂は雪迄深りする蓑の宝　葉
そそ迄ハ猶ふる雪の彩　蕉

馬士を待急ぎ井戸の宿　堂
月夜は樵を法ふ探出　二
大ふ石しる雨高ふ子代迄　蕉
さん積こふる年のあ義　葉
川ふそ門の尾よ雪降て　二
る訳をる庵ふ俤をそふ　堂
今流ふるひと雨の鶴と雪迄　葉
年行の迄は祝ふ隠ふ　蕉
雨恒はこさ雨雪ふの宿の門　堂

日ハ高ク出る二月朔日

二月の伊勢の蛇のとり初て　　蕉

鉢樺芝屋くるみの上ミ　　蘭

支梁亭口切

口切や炉の底をうつしうつす　　芭蕉

筆ゝてゝ数のうつり香　　支梁

出ゝて筆よりふへ白屋もと　　嵐蘭

秋の雲ゝの数の　　利合

海人ゝ出ゝ小月の内ゝ

大戸と開小出る孫　　酒堂

新の雲ゝの数と走ゝへ　　紙水

いゝゝて開ゝ海和ゝく　　桐実

緑ゝ六田の柳ゝ植ゝ　　也竹

掛菜ゝ歩ゝ大釜の汁　　梁

こゝゝゝゝ而ゝ山ゝ傑の雨　　蕉

還ゝゝ家ゝ坊の極　　合

ゝゝゝ濃の石の上　　堂

水

酒くらべ人間の命の化月
の雲の岩川の玉をかけてと
蘭堂
庵に竹笠一枝の清
梁
毎日入るさゝ庵の冬庫
竹
崑の小菓の庵てのゝく
笑
ゆるて五年の秋の神事
合
咲て酒をすゝめ桜の宮
山堂
咲毎日出るさゝ猪をと
蕉
ゆるの名ゝ桃祀のうを
茅

九月十三夜
清氣に清遠とゝ秋の月
日暮に翁貴ゝ名ゝ
ゝ堂
ゝの庵の蕉ゝ川口
梁
ゝの稲の穂に肩を
合
ゝゝ貴ゝゝ川の坂
葉
沒月の雲ゝ喰ふゝ月
蕉
上ゝ毛吹ゝ白ゝの響
笑
若侍ゝ流ゝゝ竹笛
竹

太刀持平[illegible]　豈
[illegible]も簾静[illegible]　蘭
[illegible]の筆[illegible]　梁
[illegible]の[illegible]の数　笑
[illegible]　合

九月九日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、[illegible]の秋の雲　酒豈
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　小鯤
[illegible]月も[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　豈
[illegible]の門の[illegible]　竹
[illegible]　[illegible]
[illegible]　鯤

[illegible]る庭外の紅葉　蘭
降橋の釜口に出もつきの上　昌房
庭にうゑる鄰の桶漬　正秀
小鳥なく内緒ものもの和歌　阿言
離しなるると月待のこゝろ　操志
懐にふかき酒の屋いさもき　游刀
[illegible]くこゝろ二寶の歎半　鄰泛
花の位射ふかき滴防くもむ　玄東
[illegible]の上るまゝ　仝

ゆくゝ[illegible]ふ物の年つゝて　鄰童
池の小渦一春の水言　仝
燒ける松葉屋の釣の月　史邦
風の実の入旅の波上戸　仝
元俗の惜るつまてる枝の雪　黒桃
古歌少しする源氏の文　仝
六月冬綿のふ葉は麦茶て　素牛
くもいのむしるの山屋洗き　仝
操の御しさけ名操の紙文乃

冬の日

枝垂るる柳はしなしなとなびくこと　車庸

二軒ならむて家の形らしく　仝

ささらなみかぶの新芽のもえ　志

如史うつむく赤唐の禅　力

渚へ迫る野山に出る雲の色　秀

家々の煙のそゆる東山　高

里うつるのすそおろせいたるの音　経

夜もすがらの嵐ふく大　房

雲の中

雲の峰やもも嶋のつつるかな　曲翠

おぼろ月の月の桂つらく　酒堂

新笠なる二畳敷法華堂　仝

赤ゐすりする馬士の徒言　翠

鳴こうる節句の朔の乳合　仝

酒巻の鶴を揚る楽屋ケ　堂

浜辺いかなる子ども下屋敷　仝

仏くの名を入れ物ゆ　翠

海の利を考へて百姓
毎年ものこのてをはるつる
まをくて田の畦仕事と保ちて
蘭の花を開くこと
花咲と雪の如くなること
雪をかぶりつゝ月を愛
紀一さの甲斐の乳の山麓
をとゝ行くて
奈良をとゝて日を
西七条東洞の
毎年一度よりもまさる
さ月〳〵春の月家の飾り
迎てのお葉もちまそ時
筑紫にて大根の陽炎
進ずるもおもしろの
山茶花の利
菊やうくゝ
忘れもかちの下の月

羽翠
堂
翠
全
全
堂
全
翠
全
堂
全
翠
全
堂

[illegible]師[illegible]　山堂
[illegible]小刻[illegible]　羽翠
[illegible]作の皮　仝
[illegible]　山堂
[illegible]の[illegible]　仝
[illegible]の[illegible]　羽翠
[illegible]　仝
[illegible]　山堂
[illegible]　仝

海[illegible]の[illegible]（サハス）り　羽翠

元年之書懐　東山堂

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　山風堂

文名の人接板の人数人事　曾我

佛名　酒堂

佛名の陰沈い香の陽の事

歳末　東堂

歳中の反事の人数也の名

附録　酒堂

年立の主配事の桃の花の人

歳末　東堂

歳の月の人接の陰の陽

人の月の人接の事の人事

源川集録

三月廿遷化行の七年書の人数年

人の世の人生白兎屋の人事

ふの人の行の人事

干時文化七年丑
夏五月之日写し
畢ぬ

樂舎